

#### 第四章 昭和十五年に於ける肅清作戰

##### 第一節 概説

北支那方面軍は前年計畫せる治安工作の完遂に専念し軍隊は高度の分散配置を採りて敵匪の治安地区への潛入を防止し其の間我が占拠地域内に楔入せる有力なる敵の掃蕩に努めたり。

我が間隙に進入蟠踞せる敵は山西省方面に於ては省境附近殊に山西、河南省境を越えて深く山西省内に楔入しあり。尙一部の中央軍及執拗なる共產軍は山西省の諸山地晉察冀邊区北京西省の山地、山東半島、晉南冀南地区の平地等に在り。

蒙疆方面に於ては旧年末の冬季攻勢に引続き本年春季迄後套作戰を実施し山西省方面の第一軍は路安南方地区の敵中央軍撃破の爲春季に晉南作戰を実施中西方より黄河を渡りて同蒲鐵道線西部に進出せる敵に對し直ちに郷寧作戰を行ひ晉南、郷寧附近の敵を撃壊せしが晉南の敵再び蠢動せしを以て五、六月の候晉南反撃作戰に依り敵を掃蕩せり。

然れども晉南方面に於ては唯敵を一時的に驅逐し得たるに止まり将来に禍根を殆せり。

斯くて北支方面の治安逐次成果を収めつゝありし時八月二十日突然共產軍石太鉄道線を急襲し我に大なる損害を與へたり。

茲に於て第一軍は二次に亘り晉中作戦を実施して敵を捕捉撃滅せんとせしも成果を収むること能はず。万回軍亦十月中旬より十二月初頭に亘り晉察冀邊区肅清作戦を実施せるも共產軍の巧妙なる退避又は潛伏戦法に依り十分目的を達成すること能はずして年末に達せり。

## 第二節 蒙疆方面に於ける後進進攻作戦 一 作戦前の状況

旧版包頭を襲撃せる傳作儀軍は我軍の反撃に遭ひ敗退せるも誇大に其の戦勝を報告し蔣介石より嘉賞せられ再度の包頭攻撃を命ぜらる。前軍に属する朱紹良部下韓錫侯の指揮する約一万の敵は一月中旬善

壩、五原を経て黄河南岸地区を東進中なり。又馬占山軍及白鳳翔軍（何れも遊撃隊）は京包線の遮断を企図し其の一部は一月十五日頃より逐次行動に移りつゝあり。又黄河以北包頭西方地区には敵第三十五軍、騎兵第六軍、其他遊撃隊等約三万あり。其の主力は五原東方地区の既設陣地に拠るものゝ如し。時恰も黄河は結氷期にして到處通過を許せり。

右情報に基き駐蒙軍は後套地区敵拠拠を撃碎して禍根を一掃せんとし同地域に対する作戰に關し上司に意見を具申せし延一月十六日大本營は支那派遣軍總司令官に對し現任務遂行の爲一、二月の候安北以西の地域に進出して作戰を実施することを得る旨指示せらる。茲に於て北支那方面軍司令官は駐蒙軍司令官をして爲し得る限りの兵力を以て先づ伊盟地区の敵軍を撃滅し然る後西転して後套地区に進攻し敵主力を率めて撃碎し敵の企図を根底より挫折せしめんことを企図せり。

駐蒙軍司令官は騎兵集團及第二十六師團の主力並獨立混成第二旅團  
の一部を薩拉齊、包頭間の地区に集結せり。

### 三、作戰經過の概要

八、伊盟地区の作戰（自一月二十一日—  
至一月二十五日）

軍は一月十五日頃より反撃を準備しありしが敵第八十六師南方に  
退却するの兆あるに鑑み一月二十一日より行動を開始し第二十六  
師團は薩拉齊附近を發し主力を以て鄂爾多斯左翼後旗王府及方登  
の敵を、一部を以て托克托、包頭間、黃河南岸地区の敵を撃破し一  
月二十五日包頭附近に集結し伊盟地区の敵に対する攻撃を準備せ  
り。

九、第一次後套作戰（自一月二十八日—  
至二月一日）

駐蒙軍は主力を以て包頭、安北、方和長、五原道を一部を以て黃  
河の沿ふ地区を五原に向ふ如く部署す。

第二十六師團主力は三十日夕刻先遣隊を以て安北及其の以北の地

地区出發其の主力は三十一日包頭を出發す。三十一日先遣隊は烏  
領東北方の既設陣地に與る敵を攻撃し二月一日之を突破し二日更  
に方合堂附近の敵陣地を攻略し五原西方に繞回し二月三日五原に  
突入す。

騎兵集團主力は一月二十八日包頭出發黃河兩岸を二縱隊となりて  
西進し三十一日右縱隊は長牙店東南方地区に陣地を占領せる約四  
千の敵を、左縱隊は同日公福<sup>フ</sup>附近にて約一千の敵を夫々攻撃して  
之を西方に撃退し二日洋人渠の線に進出し四日五原附近に集結し  
主力を以て同地周囲の敵を掃蕩す。

軍は四日諸隊を五原附近に集結すると共に一部を以て臨河方向に  
敵を追撃し主力を以て二月五日善壩に向ひ敵を追撃し左追撃隊は  
四日夕臨河を占領し其の一部を以て更に寧夏省内に進入追撃す。  
右追撃隊は五日夜善壩を占領し附近の殘敵を掃蕩せり。

又内蒙軍の一部は二月二日頃中公旗附近出發百川堡附近に前進し

二二二  
敵の西方への退路を遮断す。

敵は寧夏方面及黄河兩岸伊克昭監内に遁走せり。

軍は所期の目的を達成せるを以て二月中旬より五原平地よりの退を開始し三月一日迄に作戰発起前の態勢に復歸せり。

### 3. 第二次後套作戰

五原附近の傳作儀軍敗退するや第八戰区司令官朱紹良は寧夏に進んで傳作儀軍に対し速に部隊を整頓反撃すべきを嚴命し傳作儀は解氷期を待ちて全力を以て日本軍を殲滅すべしと誓しありしか果して三月二十一日未明第三五軍と判断せらるゝ敵は五原に來攻せり。

我が五原特務機關並内蒙軍三箇師及綏遠警備隊等之と激戦せしか同夜五原内域は敵の占領する所となれり。

我軍は急遽安北警備部隊を出発せしむると共に騎兵集團主力第二十六師団の一部を五原方面に派遣す。同部隊は三月二十二日夕より

五原北方大同附近に於て五加河の渡河を準備し二十五日夕飛行隊の協力の下に敵前渡河を強行し二十二日五原に入城し爾後追撃を続行せんとせしも敵は五加河を決潰し其の浸水地域拡大せるを以て軍は追撃を断念し附近の敵を掃蕩して三月二十九日同地出發夫々原駐地に歸還せり。

### 第三節 山西省方面に於ける作戰

#### 第一款 春季晋部山西省に於ける作戰

其の一 作戰前に於ける彼我の状況

昭和十四年夏秋の候晋東作戰及路安掃蕩作戰に依り路安地区は我軍の占領下にあるも其の他の晋南地区特に大洪、中条兩山系地域は敵中央軍之を占拠し北支に於ける第一の拠点となれり。  
又路安北方山地帯は朱德麾下の共産軍の根據地にして路安平地に其の勢力を拡張し晋南の中央軍と政治部門に於て相対しあり。

山西省西南部には依然閻錫山の指揮する山西軍蟠踞しあり其の軍内に内訌起り其の動搖防止の爲陝西省より李文の率ゆる中央軍四箇師郷寧附近に進入し山西軍の警戦に努めつゝあり。

前記晉南に於ける中央軍は抗戦意識相当強烈にして三月中旬以降一軍を黃河南岸より高平附近に推進せしめ且日本軍の潞安方面よりの進攻を慮り配備の重点を潞安南方地区に移動せしむ、其の兵力は閻立煌の指揮する中央軍約二〇箇師を基幹とし其他の兵力約一〇箇師を算す。潞安平地の共產軍は中央軍の配備變更に伴ひ潞安北方地区に退避せり。

山西省防衛の任務を有する我第一軍には前年第三十六、第三十七、第四十一師團及獨立混成旅團二箇増加せられたるも夏秋の頃より從來駐屯しありし第二十、第百八、第百九師團内地に調遣せるを以て山西省に於ける第一軍の兵力は師團三箇獨立混成旅團四箇となり第三十七、第四十一師團は南部同蒲鉄道沿線を第三十六師團は潞安地

区に独立混成旅団は是等師団の警備地域以北の地域の警備を担当し  
あり。

北支那方面軍は山西省南部特に潞安南方地区は北支に於ける敵勢力  
の伸張なるに鑑み四月下旬より晉南作戰を開始し旬日ならずして敵  
の根拠を殲滅せしが其の作戰中我殘置部隊の手薄に乘じ同省西南部  
の敵の挑戰に對し晉南作戰に引続き郷軍作戰を実施して敵を殲滅中  
同省南部の敵亦活潑となり五月下旬より再び反抗ありて之に對し軍  
は晉南反擊作戰に依り之を撃破せり。

## 其二 春季晉南作戰

### 一、作戰指導

前述晉南地方の敵情に基き我が第一軍は之を殲滅するを要すとなし  
研究する所あり。北支那方面軍亦其の必要なるを感じ本作戰に第三  
十五師団をして協力せしむる如く部署する所あり。

第一軍作戰計畫の概要左の如し。

#### △作戰方針

二二六

晉南地区一帯の敵を殲滅し其の蠢動の根源を封殺し以て蔣政權抗戰力の崩壊を誘發せしむると共に我占拠地域を拡張推進し明朗北支の治安確立を促進す

#### △參加兵力

第三十六師團

第三十七師團

第四十一師團

#### △作戰經過の概要

#### △中条山脈方面

第三十七師團は四月十五日夕迄に集結を完了し其の主力は运城南方及東南方地区に其一部は解縣附近に集結し尙一部の兵力を以て中条山脈分水点附近に派遣し之を占領して攻撃を準備せしむ。

四月十七日弘曉と共に解縣、張村、張店鎮より攻撃前進を開始し

飛行隊協力の下に同日一五〇〇一七〇〇の間に陌南鎮、平澤、茅津渡附近黄河北岸に進出す。

茅津渡占領部隊は十八日左方に旋回して其の東北の既設陣地に拠れる敵を攻撃し十九日敵の拠点滝底村を奪取す。二十五日更に毛家山岳家山方面の敵第四集團軍第十七師の残敵を掃蕩す。

第三十七師団は軍命令に基き一支隊を抽出し第四十一師団に増援する如く部署す。同支隊は十九日戦場を離脱し還城より鉄道輸送に依り翼城方面に派遣せり。

## 2. 路安南方方面

第三十六、第四十一師団は路安南方方面に対し四月二十日より攻撃を開始す。

(1) 第四十一師団は二十日より主力の攻撃開始に先ち敵を牽制すると共に爾後の作戦を有利ならしむる為其の一部を以て第三十七師団に策応して十七日天明と共に翼城東南地区の敵に対し攻

撃を開始し同日八時頃之を撃破し更に十八日払曉より店村東南  
方二三八の敵陣地を攻撃し十九日張馬村附近に進出し二十日より中村  
鎮附近の堅陣に対し攻撃を果施す。

師団主力は十九日浮山東方地区に集結し二十日早朝四縦隊とな  
り沁水、富店鎮及河套に向ひ前進を開始し途中敵の抵抗を排除  
し二十一日沁水、富店鎮及河套を占領す。次で三縦隊となり嶮  
峻なる山地に突れる敵を撃破しつゝ前進し二十四日陽城を占領  
し二十五日更に関村に向ひ進撃し二十六日同地占領一部を天井  
関方面に派遣して敵の退路を遮断せしむ。

師団の右縦隊方面に於ては二十日以來中村鎮附近の敵陣地を攻  
撃せしも戦況進展せず交綏に陥りしが二十六日漸く敵第十四軍  
を撃退して中村鎮を占領するや直ちに陽城方向に追撃を開始す。  
第三十七師団より増援の為翼城に到着せる支隊は翼城―沁水道  
を急進し二十六日端氏鎮を占領し二十七日同地附近を掃蕩す。

(四) 第三十六師団は十九日潞安南方地区に集結し二十日早朝より主力は三縦隊となり敵第二七軍の根拠地陵川に一部は二縦隊となり高平に向ひ夫々前進を開始す。

高平に向へる二縦隊は高平北方地区にて敵第八八師と遭遇交戦して之を撃退し二十一日高平附近の敵堅陣を突破す。次で其の西方及西南方の堅固なる敵の陣地を逐次攻略しありしが左縦隊は二十三日夜当面の戦場を離脱し高平―沢州道東方地区に移動し二十五日朝巴公鎮附近陣地を奪取し沢州に向ひ追撃す。

陵川附近に前進せる師団主力は二十日午后より陵川北方の敵陣地を攻撃せしが其の抵抗頑強にして容易に攻略し能はざりしが右縦隊の迂回により二十一日夜より戦況漸く好転し敵に相当の打撃を與へたる後陵川を占領す。乃ち一部を陵川に残置して敵を掃蕩せしめ主力は西南方に突進し二十五日午後沢州を占領す。師団は二十七日有力なる一部を以て天井関方面に敵を急迫せし

め一部を以て反転北上して高平西南方面を掃蕩せしむ。二四〇

(ハ)第三十五師団は有力なる一部を以て二十五日朝より清化鎮西北岳坪村附近敵陣地を攻撃し同日之を突破し二十六日朝来沢州に向ひ追撃して天井関に進出し第三十六師団の一部と連絡す。敵は涇源附近に退却するの情報に接し師団は同地に向ひ転進せり。

斯くて軍は平堡、張馬、沁水、陽城、沢州等に新に駐兵して附近を掃蕩し治安の確立に努む。

第四十一師団は五月初旬靈封鎮附近の殘敵を掃蕩したる後其の主力は原駐地に歸還す。

### 其の三 郷寧作戰

#### 一 作戰前の状況

山西軍督戰の爲李文の率ゐる中央軍の郷寧附近に進入せるは前述の如し。李文は山西軍をして遂次汾河平地に進出せしめ我晉南作戰の

為警備手薄となれるに乘じ其の行動を活潑ならしめ五月上旬頃より平地方面の我警備隊に對し出撃す。

第四十一師團方面に於ては敵は逐次汾城附近に近接し五月一日には第五三師と判断せらるゝ敵汾城に向ひ攻撃し来り又同日夜侯馬鎮に對し敵第六一師の一部來襲す。又黑龍關及臨汾西方地区に於ては敵の行動漸次活潑となり師團は局地毎に果敢なる反撃を行ひつゝありしが軍命令に基き逐次趙曲、史村及蒙城間に兵力を集結し進攻の準備を為せり。

又第三十七師團方面に於ては河津、稷山方面敵の進出地未だ確立せざるに乘じ河津及稷山附近より五月二日敵第一〇九師の一部を攻撃し又一部を以て侯馬鎮附近來襲せる五百の敵の背後より攻撃して之を潰走せしむ。爾後軍命令に基き師團主力を以て稷山、河津附近一部を以て新絳附近に集結す。

我第一軍は晉南作戰に引続き敵の機先を制して山西省西南部の敵を

黄河左岸地区に於て捕捉撃滅するに決し第三十七、第四十一師団を二四二して作戰を準備せしむると共に晉甯作戰に参加せる兩師団の兵力を速に原所屬に復歸せしむ。

### 三、作戰経過の概要

軍は五月十日を期し第三十七、第四十一の兩師団をして郷寧に向ひ作戰せしむ。

第三十七師団は第四十一師団と連袂し五月十日河津北方地区より攻撃を開始し頑強に抵抗する敵を撃破しつつ、追撃を強行して郷寧西北三墩鎮附近に進出して吉泉への退路を遮断し執拗に蟬集攻撃し来る敵を捕捉潰亂し五月十五日郷寧を占領し又新綽方面より西北進せる同師団の一部及趙曲、蒙城方面より西進せる第四十一師団は五月十日攻撃を開始し險峻に拠る頑敵を撃破しつつ、郷寧に向ひ果敢なる追撃を実施し十六日郷寧東方地区に進出し第三十七師団と共に南方より退却せる敵を挾撃せり。

斯くて概ね所期の目的を達成したるを以て軍は十七日より原駐地に  
歸還する如く部署す。

兩師団は所命の如く十七日頃より敵を掃蕩しつゝ反転歸還の途に就  
き十九日、二十頃概ね汾河平地に歸還せり。

#### 其の四 晉南反擊作戰

春季晉南作戰に依り我軍は平陸、襄陽、沁水、陽城、沢州等の南部山  
西省に兵力を配置せるに對し敵は之が奪還を企圖せるが如く偶々鄉寧  
作戰に依り晉南に對する我が晉南兵力減少せるに乘じ敵軍の行動漸次  
活氣を呈し第一戰区軍司令喬立煌は五月二十日二四〇〇を期し晉南一  
帶の地区に反攻を命ず。

我第一軍は此の機に乘じ敵軍を擊滅して晉南作戰の成果を更に拡充す  
るに決し各兵団をして敵の出擊に對し隨所に之を捕捉擊滅せしむ。

第三十六師団は敵を各所に破獲せしか特に沢州西方及天井関西南方地  
区に對しては敵支隊を編成して敵を擊退せり。

第四十一師團方面に於ては陽城西方及南方の敵地に対し陽城警備隊は師團増援部隊（郷寧作戰より急遽転進せる部隊）と協力して陽城東方地区より敵を西南に撃退し次で同警備隊は沁水より来着せる部隊と共に敵を北方に撃退せり。

第三十七師團は各地の兵力を抽出し先づ絳崇東方の敵を撃破し次で一部を聞喜東方地区に激勵せしめて敵第九八軍の一部を撃退す。又夏県東方地区にては敵を平地に誘致して之を包圍殲滅す。

以上の如く各兵團は寡兵よく敵を撃退して敵の企圖を挫折せしめたり。

## 第二款 晉中作戰

### 其の一 共產軍の山西省内鉄道急襲状況

北支一帯に蟠踞せる共產軍は第一八集團軍長朱德の部署に基き「百團大戰」を呼唱し昭和十五年八月二十日夜を期して一齊に我交通線及生産地域へ主として礦山一に對し奇襲を実施し特に山西省に於て其の勢熾烈にして石太線及北部同蒲線の晉南段を襲撃すると同時に鉄道、橋梁及通信施設等を絳、潞又は毀壞し并陘炭坑等の設備を徹底的に毀壞せり。本奇襲は我軍の全く予期せざりし所に於て其の損害も甚大にして且復旧に多大の日時と巨費を要せり。

右奇襲を受けたる我軍は將來斯くの如き不覺を遂起せざる為に軍の威信保持の爲共產軍を徹底的に潰滅せしめんとし晉中作戰を企圖するに至れり。

### 其の二 奇襲を受けたる當時の作戰

一、石太線沿線を奇襲せる敵は第一二九師の約六〇〇〇晉察冀邊区第二

第一九四及抗日軍政大学学生隊等にして八月二十日夜娘子関、栓家  
龍底、宕会、亂流、辛興鎮、盧家莊間の各警備隊は不意に敵の奇襲  
を受けたるも道路鉄道破壊せられ為に全く増援を受くること能はず  
各部隊孤立之を撃退す。

独立混成第八旅団の警備の担任地域にある并陘炭礦は八月二十日夜  
内外より敵の襲撃を受け徹底的に設備を破壊せらる。

壽陽南方龍化警備隊は二十三日に至り約五〇〇の敵の攻撃を受け二  
十六日漸く之を撃退せり。

三 北部同蒲線方面も八月二十日夜半より敵の奇襲を受く。同蒲沿線及  
其西方地区の我が警備隊は之等の敵の攻撃を撃退せるも鉄道に相当  
の損害を受く。独立混成第九旅団は進んで太原及忻県西方地区の独  
立混成第三旅団は原平靈西方地区の敵を掃蕩し二十九日夫々原駐地  
に歸還す。

三 南部同蒲線方面に於ては敵は休介及霍泉附近鉄道沿線の各所を襲撃

せしも我第四十一師団は何れも之を撃退せり。

四、京滬線方面は八月二十日及二十一日兩日に亘り決死第三縱隊の約六

五〇〇一齊に攻撃し來れるも之を撃退せり。

五、京漢線方面に來襲せる敵は晉察冀邊区軍冀南軍区の一部及一二九師の一部等八〇〇乃至一〇〇〇にして第百十師団担任区域にては二十三日高邑附近の敵約二〇〇〇を又二十五日柏郷南方の敵約二〇〇〇及孤裡村の約二〇〇〇の殘敵を討伐し獨立混成第一旅団は徽州南方に蠢動中の新編第一旅を討伐す。

### 其の三 第一期會中作戰

我第一軍は正太線を襲撃せし敵共産第一二九師を捕捉撃滅せんとし獨立混成第四、第九旅団をして之を實施せしむ。其の概要左の如し。

一、參加兵力

獨立混成第四旅団

歩兵四箇大隊

獨立混成第九旅団

歩兵三箇大隊

独立混成第九旅団は八月三十日大谷―楡次間の地区より独立混成第四旅団は九月一日平定、和順、遼東、楡社附近より相策應して前進し随所に敵を撃破潰走せしめて松裕鎮及馬坊鎮附近に進出し敵を掃蕩して敵後方施設を覆滅し九月四日反撃を開始し七日迄に夫々出發地附近迄に歸還す。爾後敵は尙有力なる部隊を各地に分散蟄伏しありしを以て軍は作戰を続行せしめたり。

部隊は九月九日より作戰を再興し敵を覆滅掃蕩し相当の成果を挙げて九月十八日作戰を終了せり。

其の四 第二期晋中作戰

前述第一期作戰に依り敗退せし敵第一二九師を主体とせる共産軍は其の主力を以て武郷東方より黎城北方に亘る山地帯に一部を以て沁源附近に蟠踞し遼東―楡社―武郷道及東路鉄道に対し執拗なる襲撃を策しありしを以て軍は敵主力を徹底的に撃滅して其の根拠地を盡滅して將

来に對する禍根を絶滅せんとし第二期第一次作戰を実施す。即ち先づ十月十一日独立混成第四旅団を以て遼寧附近より第三十六師団の一部を以て瀋陽城附近より南北相呼應して遼寧、渉寧、瀋陽、武郷間の地区の敵を率めて掃蕩し其の根拠地を殲滅して十一月十四日作戰を終了す。次で十一月十九日より沁陽一帯の敵に對し第二期第二次作戰を開始す。即ち第三十六師団は虎亭鎮、沁陽、南関鎮附近より独立混成第十六旅団は平遙介休、霍縣附近より第四十一師団の歩兵一大隊は洪洞東方地区より夫々郭道鎮及沁源附近に向ひ求心的に攻撃前進せしが大なる敵と遭遇することなく沁河一帯の共産軍根拠地を殲滅せり。次で各部隊は反攻し十二月三日作戰を終了せり。

今次作戰に依り共産軍は相當の打撃を蒙り爾後専ら遊撃戰に終始し大なる反攻を実施せざるに至れり。

## 二 敵情

### 第四節 河北、山東、蘇北方面の作戰

二五〇

我軍の進攻作戰終焉し我占拠地域の治安確保の時期に入るや我占拠地域は警備兵力に比し廣大なるに於て國民黨軍及共產軍の潛入して治安を攪亂するもの頗る多く國民黨軍は山東省及北部江蘇省に干渉を長とする魯蘇戦区軍を南部河北省、西部山東省、北部河南省附近には石友三軍、朱懷永軍、孫殿英軍あり。山西省方面には其の東南部に第一戦区軍あり又共產軍は山東省の山岳地帯蘇北、北部安徽省附近、晉察冀邊区、山西省北部一帯に踞して我警備地区を脅威しあり。

而して中央軍と共產軍とは眞の思想相容れず互に對立して其の勢力圏の擴大に努め其の對立漸次激化し山東省及蘇北、皖化地区（北部江蘇省、北部安徽省）に於て特に甚し。國民黨の勢力を驅逐したる余勢を驕りて其工作活動となれる共產軍

に對し北支那方面軍は各方面に對して共產軍の討伐を実施せり。

## 第五章

### 第一章 昭和十六年に於ける山東省方面肅清作戰

#### 第一節 西方作戰

山西省中央部以北の山地内は共產軍の蟠踞する所なりしが前年八月以來の晉中作戰及晉察冀邊区肅清作戰に依り我軍に追ひつめられ山西省の同蒲鐵道西方の共產軍も晉中作戰に依り相當の打撃を受けたり。然れども其の一部たる共產軍第一二〇師は昭和十五年十二月興縣南方地区に蟠踞し其の行動活潑化するに至れり。

右情勢に於て我第一軍は敵の機先を制して之を攻撃し其の根拠地を覆滅せんことを企圖し左記兵力を以て本作戰を送行するに決す。

独立混成第九旅団の主力

独立混成第十一旅団の主力

第三十六、第三十七、第四十一師団の各一部